

御一代聞書などを一二章宛讀み心を利けて朝食し
 各自の仕事に就き夕刻は又一同佛前に同一の式を
 行つて眠りに就くのである、唯以上の儀式は讀經
 の修法にのみ終つて家庭教育の全體に影響を及ぼ
 すことが尠くないから可成之を訓育の中心とする
 やうに注意しなければならぬ宗教と云へばやゝも
 すると迷信に流れ易いものであるからこの點は充
 分注意しなければならぬ一、祈禱卜占は一切之を
 禁すべきこと、二、一神一佛以外の禮拜は之を禁
 すべきこと、三、信念生活に導き宗教的信念が倫
 理的象現の實果と相伴ふやう注意すべきこと、此
 三點の備はりたる宗教なら如何なる宗教でも宜し
 い兎に角宗教がないと家庭の規定が中心を失つて
 その訓育を全ふすることが出来ない人と人との關
 係には倫理の方が多く物を言ふやうに見へても人
 間以上の勢力を認める點になると倫理の黙止する
 所に宗教は發言權を持つのであるそこでこの點に
 一定の信念が定つて居ないと生に迷ひ死に惑ひ人
 間以上の聲には耳を掩ふて止むやうになる之れで
 到底人の情意は満足することが出來ずその信性を

満足することが出來ず宇宙に棲息して自然に生ず
 る理想も満足することが出來ないそこで個性の修
 養を計るためにも、子弟の教育の爲めにも、家庭
 の規律を保つ爲めにも個人信念の樹立を期する爲
 めにも宗教は家庭生活に於て最有力な中心點と
 ならねばならぬ。

室内の裝飾

吉田博氏談

▲室内裝飾 と之ふ事に就きましては自分でも大
 分久しい以前から考究致して居りましたが凡そ日
 本の家屋に對して室内裝飾を施すには三様の場合
 があらうと思ひます、即ち第一は從來の日本建築
 木造建築に裝飾を施す場合第二は建築構造を
 全く改め西洋風に裝飾する場合第三は西洋風の建
 築靴穿きの室を成るべく日本趣味と調和させ
 て裝飾する場合であります、從來の日本建築に於
 ける室内裝飾を見ますのに往々何等裝飾的の意義

無しに只徒らに古人の舊型を墨守して居るに過ぎないと思はれる節が多くあります、裝飾的知識の無い人が昔の型を模倣するばかりで建築上又裝飾上何等の新発見もなければ新趣好も無い、何の家を見ましても其の裝飾法は殆んど一定して居りまして個人の家としての特色變化は少しもありません、此の變化の無いと云ふ一原因は私の思ふには日本建築が木材を多く用ふると云ふ事と壁や襖の如きものが裝飾するには餘りに弱く且つ粗末に出来過ぎて居るからだらうと思ひます、新趣好を施すには従つて新しい骨組が必要でありますから將來の日本建築は此の要求に應じて相當の改良を施さなければなりません。

▲全然西洋風に倣つて裝飾を施すのも東西兩洋の趣味の粹を取つて之を調和させて裝飾しますのも等しく裝飾家の仕事には相違ありませんが前者に比らばれば後者の方が遙かに困難な仕事であります西洋の材料を其の儘に用ひて西洋風に裝飾する事は格別の苦心を要しませんが西洋趣味を取り入れて而も之を全く日本趣味化して靴穿きの室を

作ると云ふ事は少なからず頭を要するのであります而して又最も非難を受け相でもあり突飛な物が出来さうでもありませんのが此の所謂靴穿きの室であり、目慣れぬ内こそ可笑しく感ぜられませうが何時か東西兩洋趣味が全く融合されて了へば一向可笑しいとも變だとも感ぜられなくなりませう、要するに現今は日本の建築裝飾の變化すべき時代で美術家裝飾家は此の際一般人の趣味の養成に勤め廣く世界的趣味を入れて新しい日本の美的趣味を作る事が必要であらうと思ひます、次の前の三様の場合に於ける室内裝飾に就いて稍や詳しく述べませう。

▲日本室の裝飾 從來の日本座敷に施された裝飾を見ますのに如何にも單調で且つ變化に乏しく殆んど裝飾の意義に適つて居らぬものさへ往々あります然しなから日本座敷でも裝飾の施しやうに依つては随分變化のある面白い趣好の室が出来たのです壁や襖や敷物や天井や其他机掛座布團等の色配合に依つて其の座敷を何となく陽氣な暖かい氣持の宜い室とする事も出来ませうれば又陰氣な

落付いた氣持の室とする事も勝手に出来るのであり、書齋客間居間玄關等が夫々室内裝飾を異にするべきは勿論の事であり、室内裝飾を完全させる爲めには、單に前に云つた壁襖敷物等の色の配合に注意するばかりではなく、額掛物、置物、茶器菓子皿の類に至る迄總べて其の座敷に宜く調和するかどうかと云ふ事迄吟味しなければなりません、從來の人は色彩の配合など、云ふ事に就いては何等の注意もせず、譬へ机掛の色と花瓶の色と調和を損はうが火鉢の色と座布團の色とが調子を缺かうが一向頓着しなかつた様であります、又形や線の妙味と云ふ事に就ても同じく不注意で線と云へば單に直線の用法しか知らず曲線美や均勢の美は更らに解しなかつたのであります。

▲床間の無い座敷 其れから又日本の座敷には必ず床間と稱する物が殆ど傳來的形式的に附屬して居て床の間を以て其の座敷の中心裝飾の中心として居る風があります、私には寧ろ床間なる物を全然廢して仕舞ふ方が宜いと思ひます、然し全然廢して仕舞ふとなると其れは寧ろ建築上の問題に入

るべき事ですから茲に述べる必要はありませんが、兎に角床間を從來の様な意味に於て床間として使せず裝飾の中心、座敷の中心を其の室の中央に移したいのであります、從來の日本座敷に床間が正座とされて居りますので、上客は必ず其の前に据はらせられる、從つて客は後ろを振返つて見なければ裝飾が目に入らぬと云ふ不便があるので折角の裝飾も何の意義をも成さぬ事になつて仕舞ひます、でありますから私は從來の如く單に床間のみを以て裝飾所と爲た坐客の座席の位置が一定した様な座敷を改めて裝飾の中心と室の中心とが一致した様な座敷を作る事を望んで居るのです。

▲建築の構造を改めたる場合に就きましては寧ろ建築家に譲る可き問題ですが、内部の裝飾に依つても客間と書齋夏向きの室と冬向きの座敷とは各特殊の感情を表はす様に作る事が出来、例へば客座敷ならば成る可く華やかな明るい調子の色を多く使つて裝飾し、快活な室を作らうし、書齋ならば成るべく沈靜な色で裝飾して且つ餘り外界の音が聞えぬ様な落付いた室を作るが宜いと思ひます、又

夏冬向きの座敷を作り出すのも同じ理屈で装飾の施し方によつては涼しい室とも暖かい氣持のする室ともなります。

▲室には色々あるが在來の日本室に西洋趣向を加へたもの、即ち少し進んだ装飾だが、元來日本のこれ迄の室内装飾といふものは何所から出た一枚板だとか南天の床柱だとか云つてつまらぬ所に力を入れて居て室内の調和とか統一とかには少も考へて居ない、此様な一枚板とか床柱とかに多額の金を費す位ならば今少し氣持の好い趣味の多い装飾が出来る、勿論贅澤を云へば春夏秋冬悉く室を異にせねばならぬが然ういふ注文は些と無理だらう、兎に角今は安價にして趣味あるものでなければならぬ。

▲凡て室内装飾には色の調子に注意を拂ふのが肝腎で一つの室の中で中心點となるものを定めて共に調和する様に其の周圍のものを置かなければならぬ、近頃テーブルを据ゑる事が流行するが其の机掛を中心とすれば其に従つて花瓶、茶碗、菓子器等は成るべく机掛と調和した色合のものをださ

ねばならぬ、又敷物の色に依つて火鉢とか机とかの色も注意すべきもので昔の様には何處焼だ此は何年前のものだ此は何の木だと個々のものばかりに凝つて居て更に其の色の調和とか統一とかを等閑に附する様では、決して客の氣持をよくし趣味を増すものではない。

▲此色の調和を取るには反對の色よりは相似寄つた色を用ひなければならぬ、次に壁の装飾だが第一に壁畫が必要だ日本の室にも壁畫を畫くべき餘地は何程もあるのだが一つには等分間隔でないの壁の心が脆弱なもので今の所では什麼しても駄目だ、で先づ其の色とか線とかに注意するより外はない。

▲壁や建具の色はバサツとしたものでなく成るべく奥深い色にせねばならぬ又之等のものを組成して居る線は皆直線のみだが此も大に曲線を用ひる必要がある兎に角在來の様には少しも纏りのない難然たるものでなく今少し色の自由、線の自由等に注意して貰ひたい。

▲殊に冬向きのものとしては室内凡てを温みの

ある色即ち赤、黄、鳶色などにするのが最も必要だ、それに床も今日では不必要なものと思ふ、又活花も在來の様に單に床にのみ据ゑるならば今迄の如く平面的で好いがテーブルの上へ据ゑて四方から見るとしては所謂流派ものは不適當である、これには其の花瓶を粗立て、居る線に調和を取ればそれで可いので別に枝を矯め葉を栽る必要はない

▲以上の事に注意すれば略は大體の調和は取れるが借それからは愛嬌だ、それには花を用ゆるのが面白いが其の用ひ方は室全體が沈んだ調子の時には最も眼につく色の花を据ゑて中心點とし複雑な調子の室には白黄等を持つて來るのが最も愛嬌のあるものだ。

▲兎に角私、在來の建築や裝飾法を全然打破しなければ眞に進歩した理想的な室内裝飾は出來ないと云ふ意見だから今迄話した事は決して十分に思ふ事を云つた譯ではない、只在來のものより稍や進んだ所だと思つて貰ひたい。

智力の發達を圖る事

光藤夫人

極幼少な子女に向つて、智識を無理に收得させる必要はありませぬが、段々長ずるに連れて、子供が不審を起して質問を出す時には、よく確實に之を解決してやる事が大事で御座います。マー春の閑静な時などに、子供を野原につれ出しますと、ソレハンソレハ大騒ぎで、ア、アソコの花は何と言ひますか、アソコを飛んで居る鳥は何で御座いますか、……アソコはアソコ木はとすべて目新しく見えるもの、一として子供の不審の種でないものはありませぬ。子供の喜びの種でないものはありませぬ。ア、大切なるは此時ではありますまいか。

世の母と呼べる、方は、此時如何なる態度で子供に接せられますか、如何なる言葉で子供の不審を解決されますか、私は其實況を承りたいと思ふので御座います。